

[あなたの社会にそっと呼びかける]

# ネオポリス両毛

■特集：知って得するお正月の過ごし方

[糖尿病を上手に予防するには……]

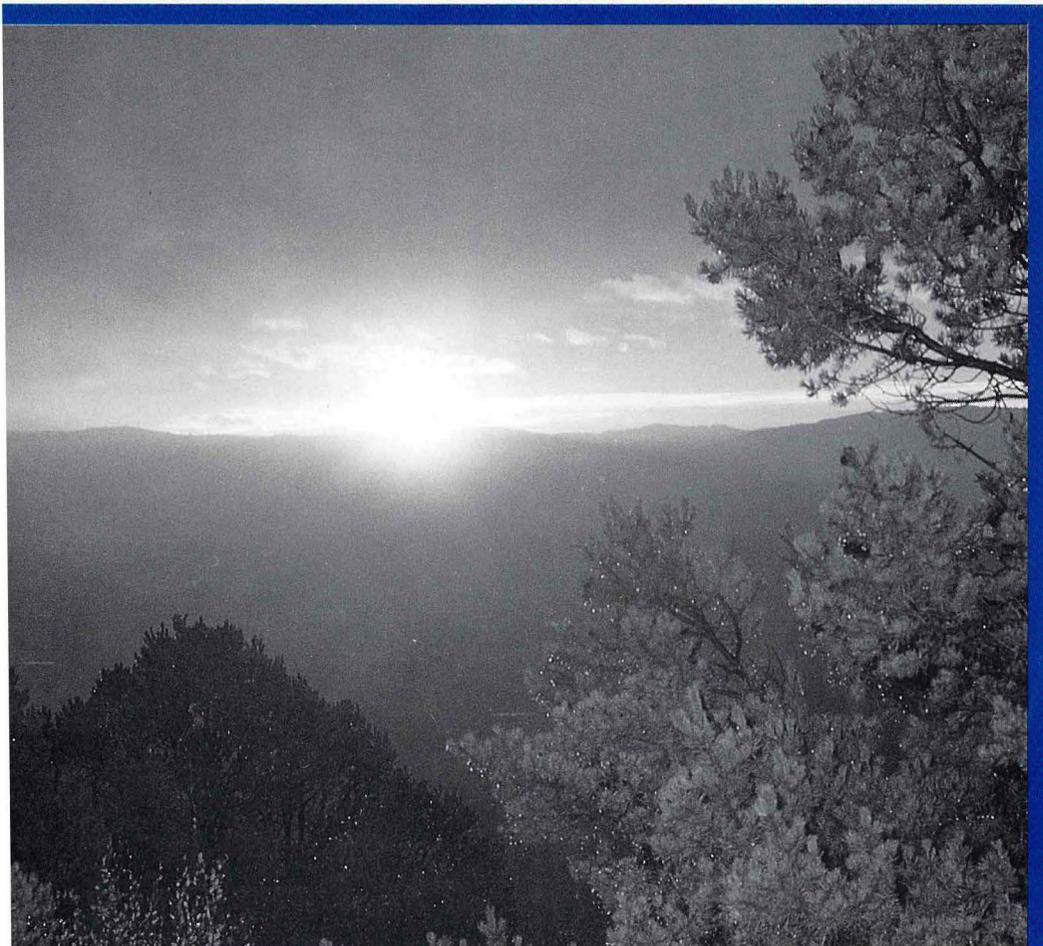
# 1

**1988. 1**  
JANUARY

NETWORK

足利・佐野・田沼  
葛生・岩舟・藤岡

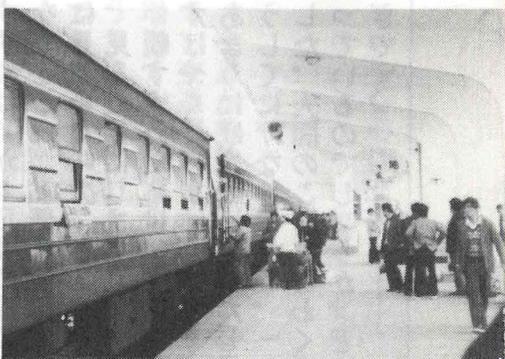
1月号  
340YEN



## 〈中国見聞録〉

# 街はほこりっぽく 人であふれた中国を歩く

●足利赤十字病院内科医師 渡辺 賢治



足利市が中国山東省済寧市と友好都市を結んでから3年が経ち、両市の交流は益々盛んになって来ている。この度第10次足利市代表友好訪中団に随行医師として参加する機会を得たので中国の現況および医療事情を独断と偏見によりレポートしてみた。

日本と中国との距離は成田―上海間が飛行機で3時間半。時差にして1時間である。私達一行はまず中国の表玄関である上海に入り、目的地の済寧市まで夜行列車に乗った。上海駅で驚いたのはまず人が多いことだ。駅前は夜の10時だというのに人であふれ、私達の乗った20両編成の列車はほぼ満員となった。

夜の波は途中停車駅でも続き、夜

中であろうが列車の乗り降りは絶えることがない。聞くと都市部では工場が24時間体制で動いており、工員は3交代制とのことだった。中国は男女平等の国である。夜勤も男女の別を問わず、私達の乗った夜行列車の車掌も女性であった。

遠々どこまでも平坦な中国大陸を走る。13時間。私達は目的地である済寧市へ到着した。ここで済寧市の概況を少し説明してみよう。済寧市は山東省の西南部に位置し北緯は足利と同じ位である。面積は足利市の55倍で、人口は590万人。済寧市は孔子、曾子、孟子などの聖人を生んだ地として中国では知られている。

### 近代化が進むにつれ

#### 漢方医学が衰退

さて、同市の医療現況はというと、中国側の示してくれたパンフレットによれば「各種衛生機構602カ所。病床8164床で病院161院・診療所381カ所があり、すべての労働者に対し公費医療が実施され、その他都市農村では連合診療所・開業医もあり、人民の医療衛生条件は改善され、風土病と伝染病を

規制している」とある。中国の医療といえはさすがに針麻酔・灸・漢方薬などを思い浮かべるが、中国の近代化の波は医療にも反映されていた。私が見学した病院は、済寧市の赤十字病院であるが、病床数は600余り。医師数は西洋医師が250人。漢方医師が18人と圧倒的に西洋医師が多かった。

病棟・外来・薬局はすべて西洋医学部門と漢方医学部門に分かれ、受診者は門をくぐると、西洋医学を選ぶか、東洋医学を選ぶか受診者自身の希望によって決まる。手術室では麻酔はすべて西洋式のガス麻酔だった。一般的に西洋医師は漢方医師を見下しており、中国でも東西医学の融合はなされていないという印象を受けた。

確かに西洋医学は実験的科学的論拠に基づいて発展したが、一方漢方医学には何千年という歴史の中で淘汰された経験が息づいている。西洋医学は、体の器官に細分化して把えようとしているのに対し、漢方医学は体全体のバランスというものを常に考えている。また西洋医学は病気をそのものをおさえこもうとしているのに対し、漢方医学は常に体力との力関係で体を優位にしようとしている。

な差がある。

### 偉大なる隣人に

#### 眼を向ける必要が

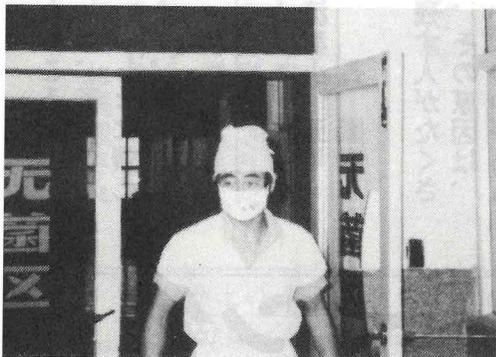
一般人民の暮らしが、街はほこりっぽく、どこも人であふれ、家は密集しており、牛馬の排泄物があちこちに見られる。また中国には、風呂に入る習慣がなく、一般家庭には風呂もない。たらいに湯を入れて行水するが、とても衛生が行き届いていないと思えない。日本人の寿命が延びたのは、医学の進歩よりも公衆衛生に負うところが大きく、そうした意味ではまだまだ課題が残されているように感じた。

さて私達一行は済寧市をあとにして北京に寄ったが、北京の街を見て驚いた。道路は縦横に3車線の道が走り、どこも高層ビルの建設ラッシュだった。中国は土地・家がすべて国のものであり、新しい道路を作るのにどこかの国みたいに坪何百万円で土地を買う必要はない。

家をどかして、その住人を高層アパートに入れる。土地利用は簡単であり開発は急ピッチで進む。どこもかしこも大勢の人々が働いており、国作りを励んでいるという印象

であった。とにかく中国では人件費が安く、人々は勤勉である。あれだけの人間・資源が豊富にあり、ないの技術だけである。中国の近代化が進み、日本に追いつく日もそう遠くはないだろう。

11日間の日程を終え感じたことは、日本は敗戦から奇跡的な復興を遂げ、経済的に世界のトップクラスに躍り出た。しかし、とかく日本人は東南アジアの国々を軽視しがちである。特に中国に対しては、日本は長年物質的には属国であったという歴史があり、長い歴史の中で日本が中国を抜いたのはここ数十年だけであらう。日本の繁栄がいつまでも続くという保証はない。偉大なる隣人に対し、もっと目を向けるべきであらう。



## ホステス10名募集!!

高級優遇・車の送迎有

両毛地区唯一のゴージャスな  
夜を満喫してみませんか?  
アルバイト可(出勤時間・勤務  
日数)はご相談に応じます。  
一定休日は日曜・祭日



クラブ

潤

足利市通3丁目(織物会館地下)

☎(0284) 21-0033・0501

※PM4:00以降にご連絡下さい。